

本校の取組が茨城新聞1面で紹介されました。

2月25日(月)付け茨城新聞1面で、本校の取組が紹介されました。「暮らしと'19県予算-3 中高一貫教育 地域のリーダー育成」という記事です。2020年度~2022年度の3年間で、茨城県立高校10校が中高一貫校になることに伴い、私も電話取材を受けました。本校の取組がとてもよく書かれていると思います。ぜひ、ご一読ください(^_^)!

地域のリーダー育成

「6年間で計画的、継続的に特色ある学びを展開できるのが最大の魅力」。県立並木中等教育学校の中島博司校長は、中高一貫校のメリットをこう語る。

同校は、2008年度の開校以来、人間教育▽科学教育

▽国際理解教育を柱に据えた6年間の中高一貫教育を実践。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSS)指定校として、特色ある教育を積極的に推進し、科学の甲子園の「中高ダブル出場」を果たすと、普美な成果を挙げる。

中でも、次期学習指導要領で掲げる「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を先駆的に導入。上級生が下級生に課題や問題の解き方を教える独自の学習方法「TO Teaching Others」(他の人に教える学習)

を幅広い教科に取り入れ、学力や人間力向上に努める。

「AI(人工知能)などの発達で大きく変化する未来で柔軟に対応していき、アクティブラーナー(能動的学習者)を育てたい」。知識と豊かな人間性を兼ね備えた次代のリーダー育成に、中島校長は自信をのぞかせる。

■高まるニーズ

中高一貫校は1999年度に制度化され、高校の学習内容を中学段階に前倒しするなど弾力的なカリキュラムが認められる。文部科学省による

県立並木中等教育学校で実践されている、上級生が下級生に課題や問題の解き方を教える独自の学習方法「TO学習」=つくは市並木

良好な進路実績を挙げている」と評価。委員からは「これまでは全ての生徒に教育を」という視点が主だったが、スベンヤリストを育てる学校も必要」と、中高一貫教育を後押しする意見も出た。

中高一貫教育に対する期待値や関心度の高さは、志願倍率にも現れている。県立中学、中教校3校の倍率は2~3倍を維持し、本年度の並木中教校の倍率は4倍を超えるなど、「ニーズは高い」(県教委)と見る。

■人材の流出防止

県は20~22年度の3年間で、中高一貫校10校を段階的に新設する計画だ。大幅増の背景には、少子高齢化に伴い、本県でも中学校卒業生数は年々減少傾向にあり、「優秀な人材の県外流出を防ぐ」(県教委)ことも狙いの一つだ。これまでは県内に公立の一貫校が少なく、通学できる範囲内になく、東京や隣接県の中高一貫の名門校に、学力優秀生徒の多くが進学してしまうとの指摘も多い。現に、他県の一貫校と併願する例も少なくないという。

県教委は県立高校改革の方向性を地域の中学校と位置付け、地域の人材を地域で育てることを重視する。小学校卒業から高校までの選択肢を広げ「茨城の子」もたは茨城で育てることが理想」と県教委。大井川和彦知事も「地域の中で特色ある学びを通して、地域のリーダーを育成したい」と強調する。(朝倉洋)

■2019年2月25日付け 茨城新聞 1面